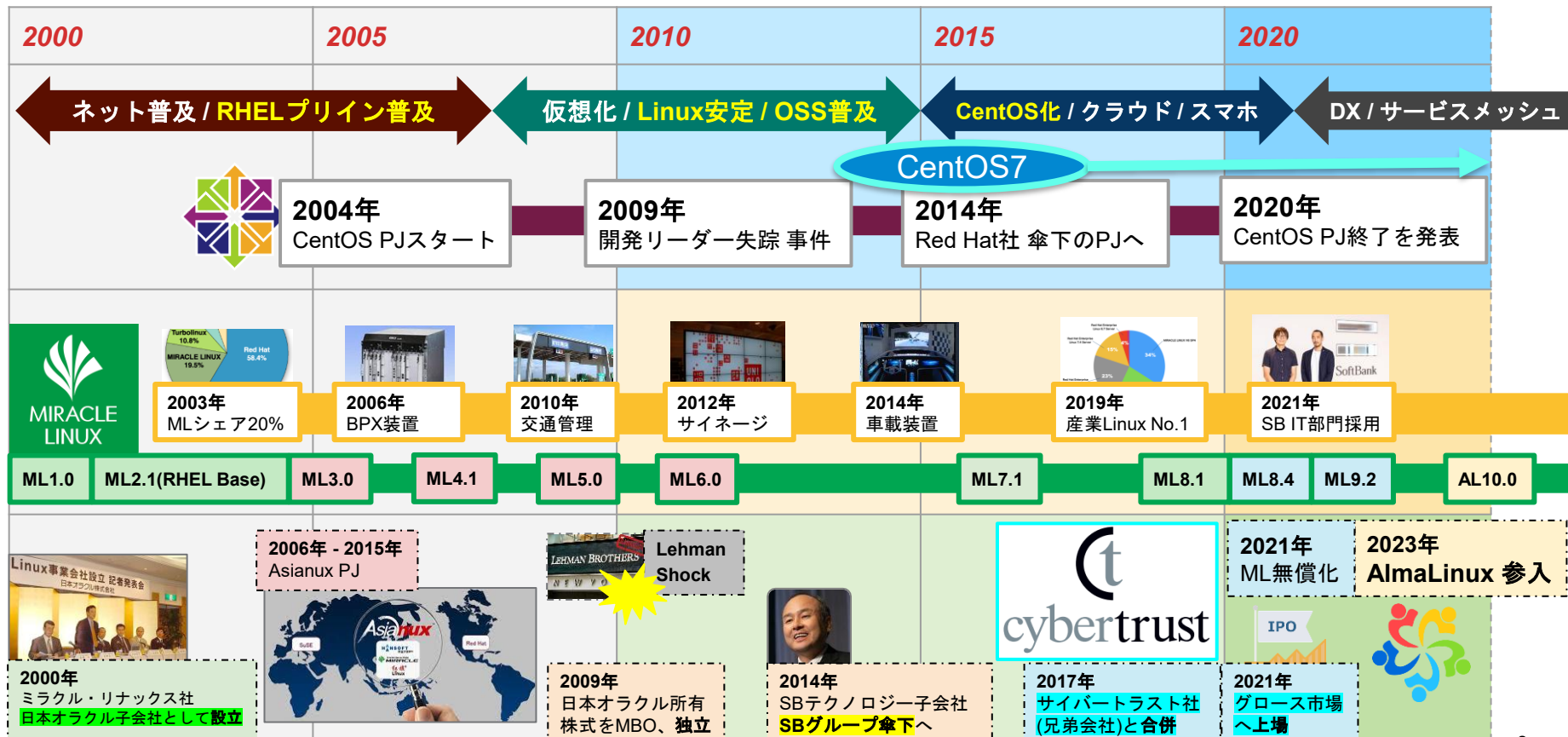


AlmaLinux製品資料



当社変遷 / CentOSを取り巻く環境の変化



1

国内Only **1**
Linux Distro

16

ML4にて**16**年
継続サポート実績

100

100名以上の
Linuxエンジニア
3名 OSSコミッター

300K

300K台以上の
保守サポート提供

AlmaLinuxコミュニティ / CloudLinux社との取り組み

CentOS ProjectがCentOS Linuxの開発を終了し、CentOS Streamにシフト。

**「無償のRHEL」として商用利用していた多くのユーザー/システム
で従来の想定通り利用できなくなった**

終わること

- CentOS Linuxの提供が終了(CentOS8は既にEoL、稼働数が最多の7は2024/6迄)
 - メジャーバージョン(RHELにおける9以降)はリリースされない
 - EoLを迎えたバージョンはメンテナンス(バグ、セキュリティ)されない
- CentOS StreamはRHELの開発版のような立ち位置に。リリースモデルも異なる
為同じようにはつかえない。

やらないと いけないこと

根本的解決にはCentOSの移行が必要、候補となる主なLinux OS



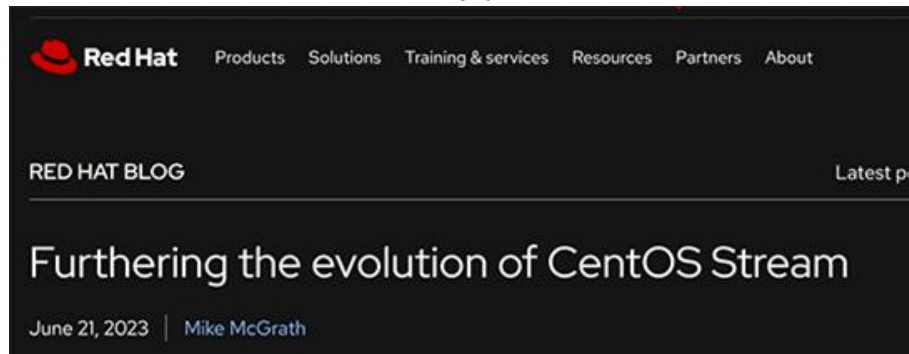
ORACLE
Linux



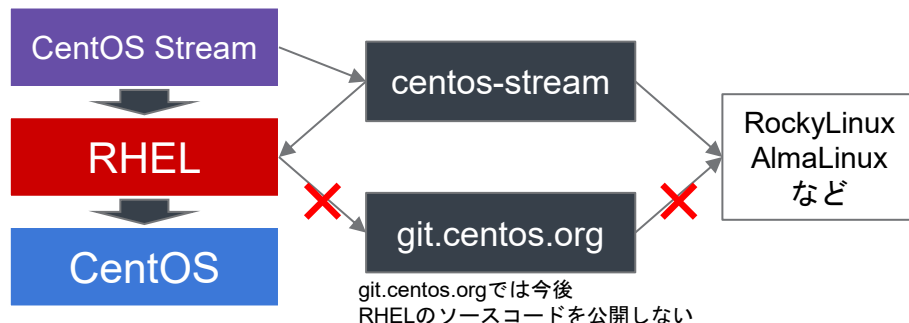
RH社の発表、および各Distroの動向

2023年
6月21日

RH社ブログでソースコード
公開に関する変更を発表

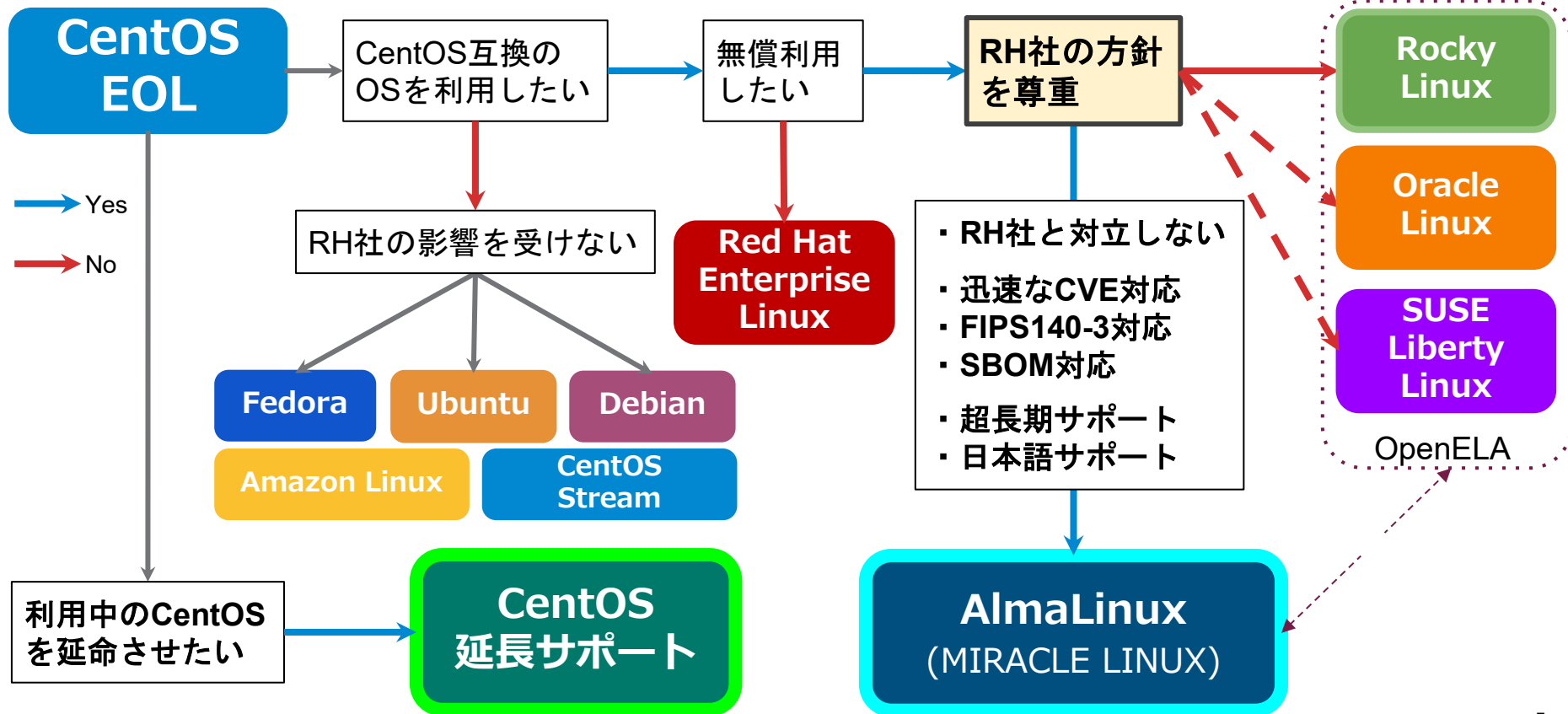


<https://www.redhat.com/en/blog/furthering-evolution-centos-stream>

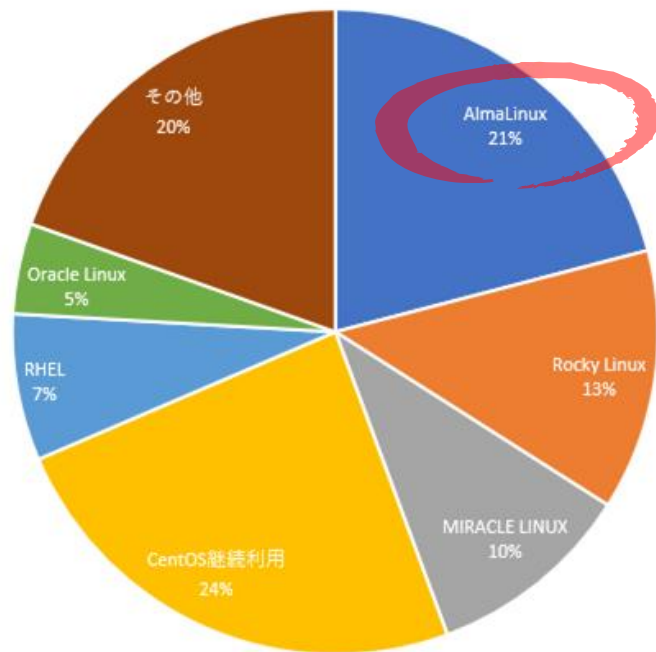


- **RHEL :**
 - RHEL SRPMはサブスク契約前提で公開
 - 結果、RHELクロンの開発は容認しない
- **Oracle Linux :**
 - IBM批判するもRHELサブスク契約を尊重
 - RHEL互換として独自に進める
- **SELS(SUSE):**
 - 1000万ドル投じ、RHELブランチ作成
 - SELS機能Backport、有償化サービス展開
- **Rocky Linux :**
 - CIQ社に帰属する開発コミュニティ(RESF)
 - RH主張に対して、RHELクロン継続発表
- **AlmaLinux :**
 - RH社と密に連携する方針
 - RHEL互換として独自に進める
- **Open Enterprise Linux Association (OpenELA) :**
 - ORACLE, SUSE, CIQが設立
 - CentOS代わるRHEL互換エコシステムへ

CentOSからの移行先候補



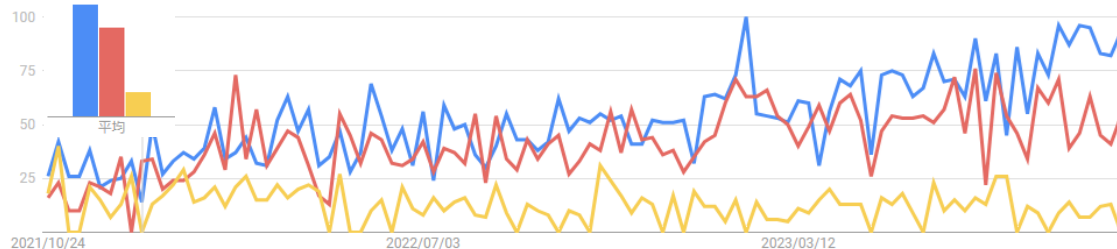
国内では移行先としてどれが選択されているか



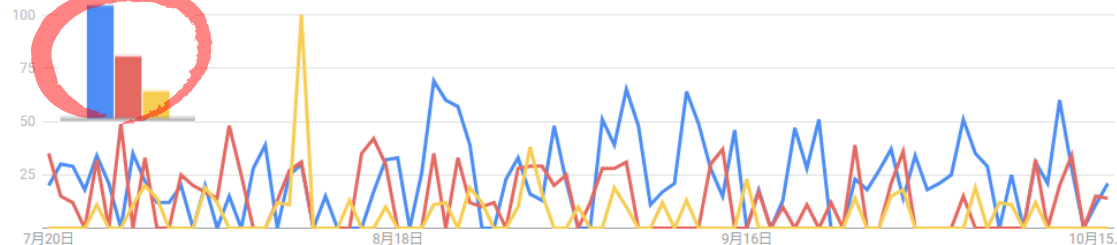
※ 1. CTJが実施したCentOS終了にともなう移行先アンケート(1170回答)



過去1年：2021/09/20～2023/10/20



過去1年：2022/09/20～2023/10/20



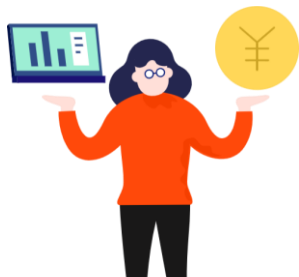
※ 2. GoogleTrend@20231020

Why ? AlmaLinux

多数の支援企業が参画
継続性が高い

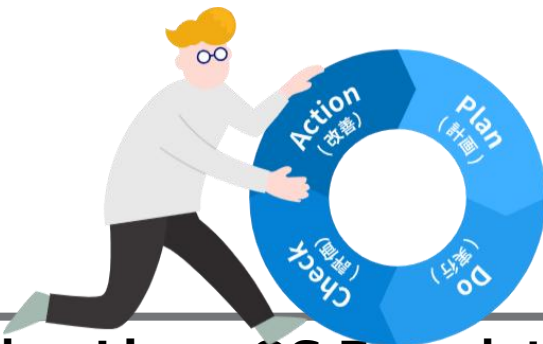
501(c)(6) 非営利団体の
プロジェクト運営

足腰の強いコミュニティ
独力でのCVE対応能力



支援企業

寄付、貢献、支援



AlmaLinux OS Foundation

開発・機能改善



開発コミュニティ

“安心安全、長期、迅速” をすべてのユーザーに提供する新たな挑戦

企業

- ・ スポンサー支援
- ・ 有償サポート提供

財団

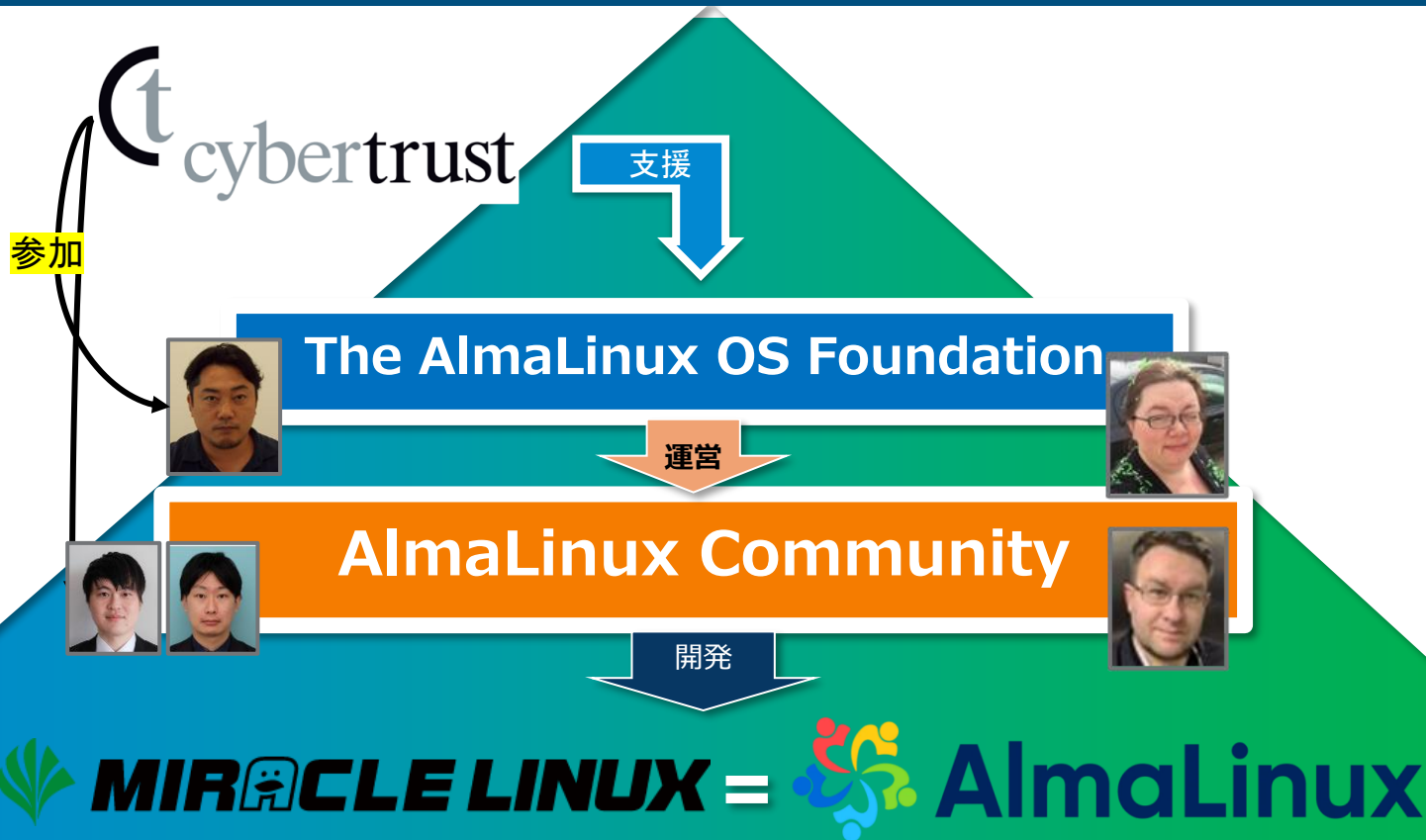
- ・ Platinum Partner
- ・ Board Member

コミュニティ

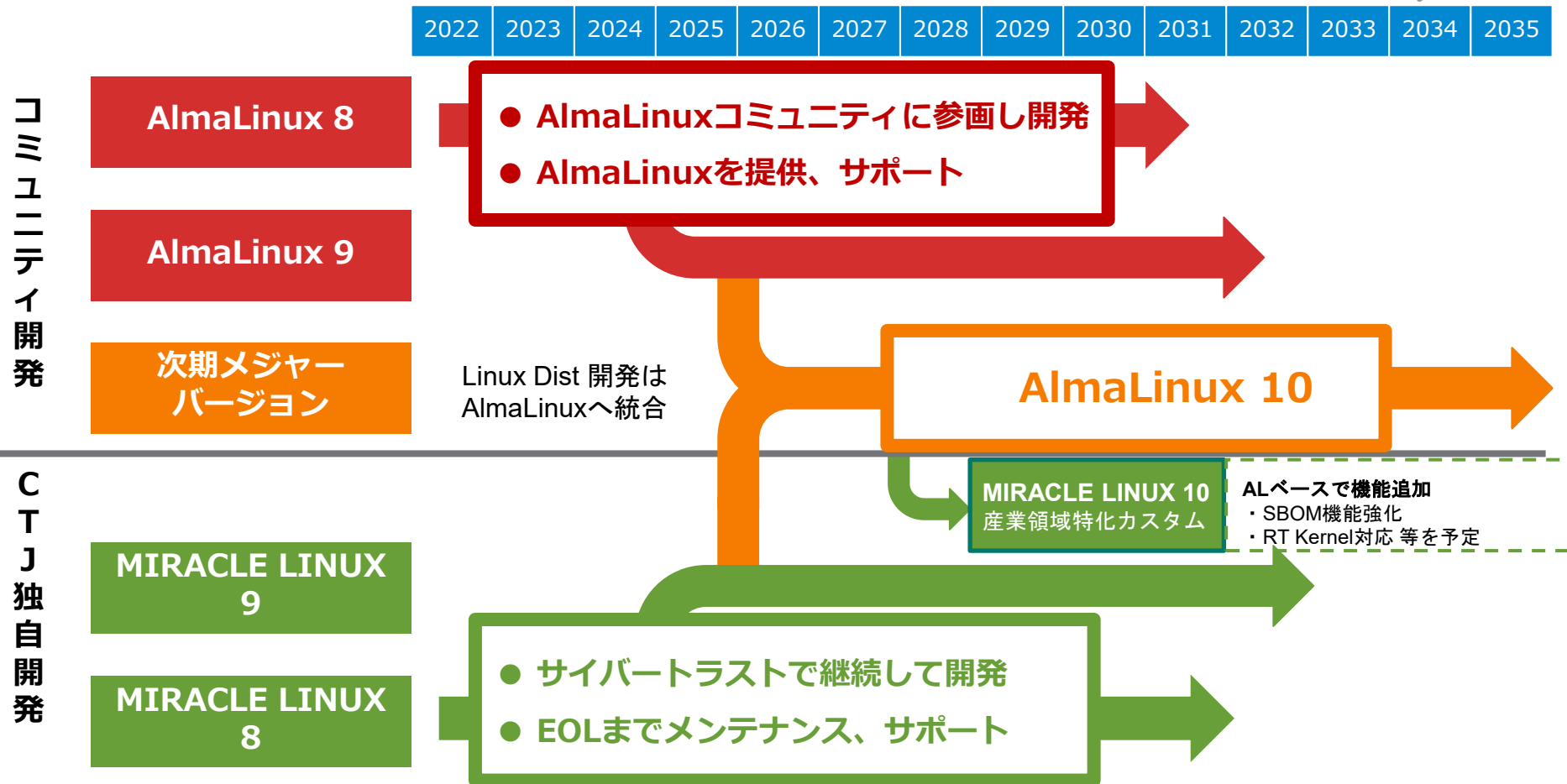
- ・ CTJ社2名Full Time

Linux Distribution

- ・ MIRACLE LINUX
とAlmaLinux統合



MIRACLE LINUX / AlmaLinux の今後



“安心安全、長期、迅速”を全世界へ サイバートラストが積重ねた実績でAlmaLinuxに貢献



2000年より
開発を継続

産業PC Linux
シェアNo.1

安心安全長期サポート
OpenSSF, CIP
コミュニティ活動

日本国内
丸23年の実績
継続性の担保

国内実績
+
Global標準

OSS
コンプライアンス
協調 * 注力

20年以上の国内実績が
裏付ける品質、安心安
全の継続

4,000,000
アクティブ

セキュリティ強化、
長期サポートに貢献





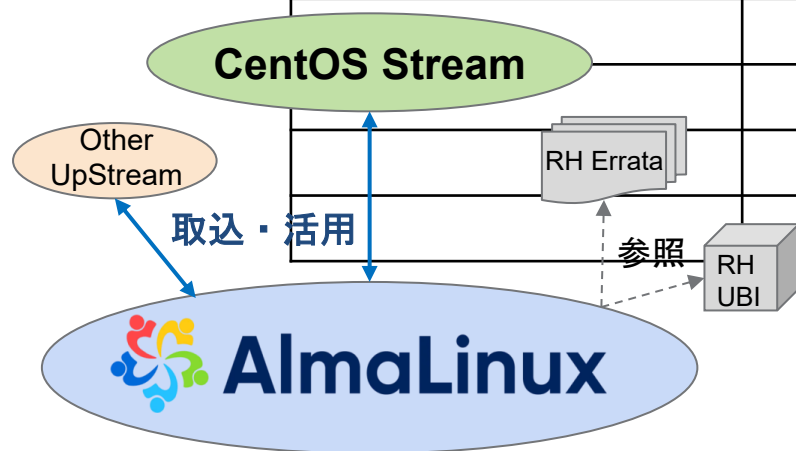
多くの企業が、AlmaLinux を選択する理由

- ✓ 安定性と迅速なリリースの実績
日本語サポートと16年の脆弱性対応を含めた
商用サポートサービス
- ✓ セキュリティを重視：FIPS 140-3、CISベンチマーク、
STIG、将来的には、コモンクライテリアにも対応を計画
- ✓ CISCO、CERN、Azure HPC、GoDaddy、HPEなどで採用
急成長するコミュニティと安定したガバナンス体制
- ✓ サーティフィケーション、OEMバンドルなども進捗



AlmaLinux Community の地力

CVE	RHSA	CVSS v3	RHEL	AlmaLinux	Rocky Linux
CVE-2023-4147 kernel	Critical	7.8	2023/09/12	2023/09/14	未リリース
CVE-2023-46847 Squid	Critical	8.6	2023/12/08	2023/12/02	2023/12/11
		OS ver.	RHEL	AlmaLinux	Rocky Linux
		8.10	2024/05/22	2024/05/28	2024/05/30
		9.4	2024/04/30	2024/05/06	2024/05/09
		9.0	2023/05/17	2023/05/26	2023/07/14



AlmaLinuxはRHEL互換としてリスタート(1年経過)



AlmaLinux OS を最大限に活用し
運用上のリスクは最小限に抑える

日本語サポート

システムのトラブルや技術的な課題
に対して、国内のLinuxエンジニア
が日本語で技術支援を行います。



技術調査の時間
やコストを削減



+6年間延長サポート

AlmaLinuxのEOL後最大6年間重大
な脆弱性に対してセキュリティ修正
を提供します。



長期運用のシステ
ムでも安心して利
用可

低コストかつ高品質の
サポートサービスで

TCO (総保有コスト)

&

ROI (投資収益率)

を最大化！



AlmaLinux向けサポートサービス メニュー

システム構成や要件に応じて必要なメニューを選択可能

	AlmaLinux Standard サポート for 物理	AlmaLinux Standard サポート for 仮想	AlmaLinux 仮想基盤向け サポート
対象OS	AlmaLinux 8 /AlmaLinux 9		
利用環境	物理サーバー上でAlmaLinuxを利用	仮想サーバー上でAlmaLinuxを利用	仮想基盤上で複数台のAlmaLinuxを利用
課金対象	AlmaLinuxが稼働する物理サーバー数	AlmaLinuxが稼働する仮想マシン数	仮想基盤が稼働する物理サーバー数※1※2
提供内容	・ AlmaLinuxに対する日本語技術サポート - インストール方法～障害解析までの技術問い合わせに対応※3 ・ 将来的な延長サポート(最大6年延長)※4		・ AlmaLinuxに対する日本語技術サポート - インストール方法～障害解析までの技術問い合わせに対応※3
価格	84,000円(税抜) / 年 / 台	48,000円(税抜) / 年 / 台	240,000円(税抜) / 年 / ホストマシン

※1：AlmaLinux 仮想基盤向けサポートの場合、仮想基盤上で稼働するAlmaLinux仮想マシンは台数無制限で利用可能

※2：パブリッククラウド等の環境ではリソース管理の単位（リソースグループ/プロジェクト 等）毎に1本の契約が必要

※3：原則メールにて対応。詳細は[SLAに記載](#)

※4：コミュニティサポート終了後最大6年間、セキュリティ修正およびテクニカルサポートを提供予定。



すべてのヒト、モノ、コトに 信頼を

留意事項

本資料に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

その他本資料に記載されているイラスト・ロゴ・写真・動画・ソフトウェア等は、当社または第三者が有する知的財産権やその他の権利により守られております。

お客様は、当社が著作権を有するコンテンツについて、特に定めた場合を除き、複製、改変、頒布などを行うことはできません。

本資料に記載されている情報は予告なしに変更されることがあります。また、時間の経過などにより記載内容が不正確となる場合がありますが、当社は、当該情報を更新する義務を負うものではありません。